

第13回巨大津波に関する合同研究集会に参加しました（2023/12/7-8）

タイトル：「第13回巨大津波災害に関する合同研究集会」

日程：2023年12月7日～8日

場所：東北大学災害科学国際研究所

目的と特色：

この研究集会は、津波の災害に関連する研究に特化しており、工学から理学に至るまで多岐にわたる分野の専門家が集まり、最新の研究成果の発表と意見交換を行います。この研究会は毎年12月に開催され、津波研究の最前線を知る絶好の機会となっています。

発表者と発表題目：

本年度は以下4名が発表者として参加しました。

【口頭発表】

三上雄大(B4)、成田峻之輔、佐藤翔輔、今村文彦

「歩行型VRを使用した津波避難誘導バルーンの効果検証に関する実験」

【e-Poster セッション】

水島琉登(B4)

「南ジャワ・チラチャブにおける緊急対応の視点での津波リスク評価」

Muhammad Rizki Purnama(D2)

「Suggestion on Developing Indonesia Tsunami Observation Network for Java Megathrust based on Stochastic-slip Tsunami Simulation」

Elisa LAHCENE(D2)

「Coral Reef Response in the Maldives During the 2004 Indian Ocean Tsunami」

新しい試み：e-Poster セッション

今回の集会では、参加者の増加に伴い、e-Poster セッションが初めて導入されました。このセッションでは、参加者が研究成果を簡潔にまとめ発表し、他の参加者との積極的な情報交換が促されました。

交流と議論の場：懇親会

1日目のセッションの後には、東北大学青葉山新キャンパス内のみどり食堂で懇親会が開かれました。ここでは、和やかな環境の中で食事を楽しみながら自由に意見を交換し、新たなアイデアや友好関係が生まれる貴重な機会となりました。



三上(B4)



水島(B4)

(文責:三上)